

一 上代文学	
1	史書・地誌・祭祀文学……………4
2	『万葉集』とその周辺……………5
二 中古文学	
3	勅撰集と私家集……………8
4	『古今和歌集』とその周辺……………9
5	物語文学の系譜……………10
6	『源氏物語』の世界……………11
7	女流自照文学の成立……………12
8	歴史物語と説話物語……………14
三 中世文学	
9	『新古今和歌集』の世界……………18
10	連歌とその周辺……………19
11	軍記物語の世界……………20
12	中世の物語文学……………21
13	隠者の文学―長明と兼好……………22
四 近世文学	
14	中世の日記・紀行と戯曲……………23
15	俳諧の系譜……………26
16	芭蕉の世界……………27
17	近世小説の展開……………28
18	近世の戯曲……………30
19	近世の詩歌と随筆……………31
五 近代文学	
20	近代の小説・評論……………34
21	近代の詩……………48
22	近代の俳句……………51
23	近代の短歌……………52
24	近代の戯曲……………54
25	近代文学の二大潮流……………55
総合演習	
重要事項の整理とチェック ……………61	

一 上代文学

● 展開 ●

- ① **口承文学時代**（文字をもたなかった時代）
 伝承方法―**語り部**（伝承を職業とする）によって伝えられた。
 内容―神話・伝説・古歌謡や祝詞の原型となった叙事文学。
 主題―神や超人的英雄に対する呪術的宗教性が強い。
 作者―特定の作者を持たない集団による共同制作。
- ② **記載文学時代**（大陸伝来の漢字による素朴な文芸意識の時代）
 文学意識の誕生―個人的感動に基づく芸術的作品が出現した。
 文学形態―次のように多様化していった。
 - ① 神話・伝説の集成統一（『古事記』『日本書紀』『風土記』）
 - ② 詩歌形態の確立（『万葉集』として集大成）
 - ③ 外来文化として漢詩文の隆盛（懐風藻）の成立
 - ④ 言霊信仰による祭祀文学の成立（『祝詞』『宣命』）
 - ⑤ 後代の様式の先駆的作品の現出（歌論・説話など）
- ⑥ 神話・伝説を伝える上代の文獻（『古語拾遺』『高橋氏文』）
 （『歌経標式』『歌論』・『日本書紀』）

● 特質・性格 ●

「まこと」の精神（「明き浄き直き誠の心」）「宣命」という純粹・素朴・真実・雄渾の精神。『万葉集』は、それが具現化されたもの。

時代区分について

本書は、政治史的に次の五つの時期に区分する。

- 一 上代（大和・奈良時代）
文学発生
- 二 中古（平安時代）
平安遷都（七九四）
- 三 中世（鎌倉・室町時代）
鎌倉幕府成立（一一九二）
- 四 近世（江戸時代）
江戸幕府成立（一六〇三）
- 五 近代（明治・大正・昭和時代）
明治維新（一八六八）

*他に精神的・階級的といった、その時代の文学精神や文学の担い手を基準とする次のような区分方法もある。

一 上代 二 中古 三 中世―法（仏法）―武家文学 四 近世―道（儒教）―町人文学 五 近代―主義（流派）―市民文学	〈政治史的〉〈精神史的〉 〈階級的〉 情（感情）―貴族文学 町人文学
--	---

《発展演習》(上代)

[3] 記紀歌謡から万葉集へ

記紀の歌謡は、もともと民謡風のもので、作者の名も確かではないが、万葉集になると個人としての作家の存在が明らかとなる。「1」は叙情的で強い感動を豊かな修辭(枕詞・序詞・対句等)によって芸術化し、「2」は叙事的で清澄な情調を単純な語句の中に形象化した。「3」のように『貧窮問答歌』等で、人生の悲哀や希望を平明な語句で率直に歌ったもの、「4」のように「真間の手児奈」等、異彩ある伝説歌を詠んだもの、「5」[6]父子のように大陸文化の感化を含みながら、それを日本的な様式で美化しようとする教養の深さを示したのもあった。しかし「7」歌や「8」歌などには民謡の風も残っている。

問1 空所1〜8にあてはまる歌人・事項を答えよ。

問2 「記紀歌謡」とは何か。簡潔に説明せよ。

問3 次のa〜eの「歌体」を後掲の語群から選べ。

- a 八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに
八重垣作る その八重垣を (古事記)
- b 白珠は 人に知らえず 知らずともよし
知らずとも 吾知れば 知らずともよし (万葉集)
- c 大君の 王の柴垣 八節結び 結りもとほし
切れむ柴垣 焼けむ柴垣 (古事記)

二 中古文学

●展開●

① 第一期 (九世紀中頃までの約六〇年) 漢詩文全盛期

大陸・唐文化の影響の下に、勅撰三集『凌雲新集』『文華秀麗集』『経国集』が撰出された。

② 第二期 (一〇世紀中頃までの約一〇〇年) 和歌文学開花期

大陸文化模倣への反省と国風文化の再認識。

① 和歌 勅撰集『古今和歌集』となって実を結ぶ。歌合の流行。

② 散文 かな文字の発達による、作り物語(『竹取物語』)、歌物語(『伊勢物語』)、日記(『土佐日記』)の三形態の文学の成立。

③ 歌謡 「神楽歌」・「催馬楽」などが舞楽や遊宴の時にうたわれた。

③ 第三期 (一一世紀中頃までの約一〇〇年) 宮廷女流文学の黄金期
藤原氏の摂関政治の隆盛を背景に、宮廷サロンの花が開いた。

① 物語 『源氏物語』によって大成。以後の文学に多大な影響を与える。

② 随筆 『枕草子』の成立。随筆文学の初め。

③ 日記 『蜻蛉日記』『和泉式部日記』『紫式部日記』『更級日記』等、隆盛を極める。

④ 第四期 (一一世紀後半からの約一四〇年) 庶民文学萌芽期
貴族が没落の道をたどる中で見出だされてゆく文学形態の成立。

① 貴族政治の最盛期を回想する歴史物語『大鏡』『栄花物語』

② 新興の武士や庶民も登場する説話物語『今昔物語集』

③ 庶民の歌謡、今様などを集めた『梁塵秘抄』

d 愛しけやし 我家の方よ 雲居立ち来も (古事記)

e こもりくの 泊瀬の山は 山立の 宜しき山

走し出の 宜しき山の こもりくの 泊瀬の山は

あやにうらぐはし あやにうらぐはし (日本書紀)

ア 短歌

イ 今様

ウ 長歌

エ 仏足石歌

オ 反歌

カ 片歌

キ 旋頭歌

ク 催馬楽

問4 次のa〜dは万葉集の影響を強く受けたといわれる人たちの著作である。その著者を答えよ。

a 赤光 b 歌よみに与ふる書 c 万葉考

d 金槐和歌集

[4] 記・紀の世界

(1) 史実を中心に歴史的要素が強く、編年体で書かれている。

(2) 国内的に思想の統一を果たそうとする意図がみられる。

(3) 大和朝廷の正統性を対外的に示そうとした。

(4) 表記・文体とも純粹な漢文で書かれている。

(5) 神話・伝説・歌謡を中心に、文学的要素が強い。

(6) 『三代実録』を最後とする、国史の最初のものである。

(7) 後世の『大鏡』でも採用された紀伝体で書かれている。

(8) 語部、稗田阿礼と採録者太安万侶の功績が大きい。

(9) 舍人親王・太安万侶が元正天皇の勅命で採録撰集した。

問 右の(1)〜(9)の解説文は、『古事記』(a)、『日本書紀』(b)のいずれに該当するか。

●特質・性格●

(1) ものあはれ

調和的な情趣美として、当代文学の美的理念の基調であり、『源氏物語』に象徴される。

(2) をかし

機知に富む美的理念で、(1)の対として、『枕草子』や『古今和歌集』に主張、尊重された。

(3) 国風文化

遣唐使の廃止とかな文字の発達により、和歌文学の再興復活の功を果たした。

(4) 貴族文学

平安京を中心とする貴族階級に占有された時代であった。

(5) 宮廷女流(女房)文学

后妃・内親王をとりまく女性の手による物語文学・随筆・日記文学の隆盛。かな文字の発達もその要因であった。